

【教科名】 国語

(1) 教科として目指すもの

中学で国語力の基礎である「読む・書く・聞く・話す」力を十分に身に付け、高校ではそれをさらに伸ばし、大学受験に対応できる実践的な力を養うことを目指します。

(2) 授業の進め方

中学では文章を丁寧に読み、読解力を養うとともに、作文の時間も取り入れながら、文章表現力を育みます。また、毎週終礼時に漢字の小テストを実施し、読み書きの基礎となる漢字を確実に身につけます。さらに年1回「朗読発表会」を実施し、読む力・話す力を育てます。高校では多くの作品に触れ、読解力を養うと共に、中学で身に付けた力を基礎にして、高2までにはそれらを定着させ、高3では進路希望に合わせた演習を行います。そして、中高それぞれ年1回、全校生徒が参加する「作文・読書感想文コンクール」を実施し、読書習慣、表現力、作文力を身に付けることに寄与しています。

(3) 各学年の使用教科書

【中学】

- 中1：『現代の国語1』（三省堂）
- 中2：『現代の国語2』（三省堂）
- 中3：『現代の国語3』（三省堂）

【高校】

- 高1：『現代の国語』・『高等学校言語文化』（第一学習社）
- 高2：『文学国語』『精選古典探究』（東京書籍）
- 高3：『文学国語』『精選古典探究』（東京書籍）

【教科名】 国 語

最終到達目標		中学で国語力の基礎である「読む・書く・聞く・話す」力を十分に身に付け、高校ではそれをさらに伸ばし、大学受験に対応できる実践的な力を養う			
ST	学年	コース	授業目標	主な授業内容	課題・講習・行事等
第1ステージ	中学1年		身の回りのものに目を向け、素直に表現できる力を養う。 【漢字】 中学1年程度の常用漢字の学習 【文法】 言葉の単位、文節、単語、品詞	<現代文>小説、説明文の読解。 <古文>古典への興味と読みの構えを作り、慣れ親しむ。 <漢文>漢文訓読の調子に慣れる。	・朗読発表会 ・作文・読書感想文コンクール ・書写の授業 ・修養会の事前学習
	中学2年		社会を見つめ、自分と社会との関係を感じながら、自分の意見を表現できる力を育てる。 【漢字】 中学2年程度の常用漢字の学習 【文法】 自立語	<現代文>小説、説明文の読解。 <古文>現代語訳、鑑賞や内容理解をさせる。冒頭文の暗誦。 <漢文>白文、訓読文、書き下し文。	・朗読発表会 ・作文・読書感想文コンクール ・書写の授業 ・修養会の事前学習
第2ステージ	中学3年		社会で生きる者として、自分とは何かを考えながら、社会で起こっている事柄を知り、それについて表現できる力をつける。 【漢字】 中学3年程度の常用漢字の学習。 【文法】 付属語、敬語、文語文法	<現代文>小説、説明文の読解。 <古文>古文読解の基礎的な知識の修得。 <漢文>漢文読解の基礎的な知識を学ぶ。	・朗読発表会 ・作文・読書感想文コンクール ・書写の授業 ・研修旅行の事前学習
	高校1年		現代文2時間、古文2時間、漢文1時間を充てる。大学入試に向けて、常用漢字の書き取り、読み方、同音異義や同訓異義などの識別、四字熟語や故事成語、ことわざなどの常識語対策を行う。	【現代文】 小説、随想、評論文の読解。詩、短歌、俳句の鑑賞・創作。文学史の学習。【古文】 説話、歌物語、伝奇物語、日記、随筆、軍記の読解、和歌、俳諧の鑑賞。 【漢文】 訓読法、書き下し文、句法の学習。	・作文・読書感想文コンクール ・読書指導 ・作文指導
第3ステージ	高校2年	理系	大学入試に向けて、常用漢字の書き取り、読み方、同音異義や同訓異義などの識別、四字熟語や故事成語、ことわざなどの常識語対策を行う。	【現代文】 小説、評論文、随想、韻文の読解。【古典】 説話、物語、日記、随筆、軍記物語の学習と和歌、俳諧の鑑賞。【漢文】 詩、歴史書、思想について。	・作文・読書感想文コンクール ・研修旅行の事前学習 ・読書指導 ・現代文・古文・漢文演習 ・作文指導
		文系	社会問題に目を向け、一つのテーマに沿って自分の意見をまとめられるだけの力を養うとともに、そのテーマにふさわしい書物を選び出し、それを理解できる力を養う。	【現代文】 基礎基本を週2時間、演習を週1時間行う。【古文】 説話、物語、日記、随筆、軍記物語の学習と和歌、俳諧の鑑賞。【漢文】 詩、歴史書、思想について、文学史について。	・歌舞伎教室
	高校3年	理系	現代文・古文・漢文の演習、「問題演習」「小論文」等にも取り組み、大学受験を意識した授業を行う。	【現代文】 小説、評論、詩歌（韻文）などの読解・鑑賞。 【古典】 共通テスト対策。	・作文・読書感想文コンクール ・大学進学向けの講習
		文系	あらゆる社会問題について自分の考えをまとめ、表現できる力を養う。多様化する大学入試問題に対応できるよう、書く機会を多く用意し、大学受験を意識した授業を行う。	【現代文】 小説、評論、詩歌（韻文）などの読解・鑑賞。 【古典】 古文では説話、物語、日記、随筆、軍記物語、和歌、俳諧の読解。大学入試問題に旺盛に取り組む。漢文は漢詩、歴史書、思想など。	・大学進学向けの講習 ・問題文演習 ・小論文指導
		推薦	系列校特別推薦入試に十分な学力を持って臨めるようにする。	【現代文】 小説、評論、詩歌（韻文）などの読解・鑑賞。進路に関する図書。【古典】 説話、物語、日記、随筆、軍記物語、和歌、俳諧の読解。	・志望理由書の指導 ・小論文指導

中学1年国語 シラバス

教科名	国語	科目名	国語	対象クラス	中学1年全クラス	単位数	4単位
教科の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。</p> <p>(2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</p>						
使用教科書	現代の国語1 (三省堂) 中学書写 (光村図書)		使用副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 解いて覚える 中学生の文法 (とうほう) ・ 国語活用資料集東京都版 (新学社) ・ 級別字典漢字の反復練習 (浜島書店) ・ 原色小倉百人一首 (文英堂) ※「国語辞典」を各自用意する (指定なし) ※その他、適宜プリントを配布する。 			

1 学習の目標

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 学習の方法

(1) 授業について

- ・ ノートは、読解分野用にB5版大学ノートを2冊用意する。1冊は「授業用ノート」で、もう1冊は「まとめ用ノート」。
- 文法分野では、ノートは用意しなくてよい。テキストに直接書き込むか、または、さまざまな大きさの付箋を用意して、必要なことは付箋に書いて、テキストに貼っていく。
- ・ プリント保管用のクリアファイルを用意する。もしくは、授業用ノートにプリントを貼ってもよい。

(2) 予習復習について

- ・ 教科書の文章は、音読する習慣をつける。
- ・ はじめて読む文章は、分からない語句や漢字がないか確認し、分からないものは辞書で調べる習慣をつける。
(※辞書は必ず授業に持参すること。)
- ・ 便覧を積極的に活用すること。習った範囲だけでなく、できるだけ多くのページを読み進めることを推奨します。
- ・ 宿題の指示がある場合、期日までに完了させること。

2 評価の観点と方法

(1) 評価の観点

観点	内容	
知識及び技能	<p>(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音声の働きや仕組みについて、理解を深める。 ○1年生で習得すべき漢字を読み書きし、文や文章の中で使う。また、その他常用漢字を読む。 ○事象や行為、心情を表す語句の量を増やし、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ○単語の類別について理解し、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深める。 ○比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使う。 <p>(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解する。 ○比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使う。 <p>(3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむ。 ○古典には様々な種類の作品があることを知る。 ○共通語と方言の果たす役割について理解する。 ○書写に関し、字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くことができ、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書く。 ○読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解する。 	
思考力、判断力、表現力等	<p>A 話すこと・聞くこと</p>	<p>話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討する。 ○自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考える。 ○相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する。 ○必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめる。 ○話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる。
	<p>B 書くこと</p>	<p>書くことに関する次の事項を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする。 ○書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考える。 ○根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する。 ○読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える。 ○根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだす。
	<p>C 読むこと</p>	<p>読むことに関する次の事項を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握する。 ○場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉える。 ○目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場

		面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈する。 ○文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える。 ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。
学びに向かう力、人間性等	言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 ○言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことに重点を置く。	

(2) 評価の方法

観点		評価教材							
		定期試験	確認テスト	小テスト	発言発表	作文レポート	作品	ノート提出物	宿題・課題
知識・技能		○	○	○	○	○	○	○	○
思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと	○		○	○	○	○	○	○
	書くこと	○	○	○		○	○	○	○
	読むこと	○		○	○	○	○	○	○
学びに向かう力・人間性等		○	○	○	○	○	○	○	○

(3) 年間授業計画

学期	月	単元	学習内容	評価の観点	備考
一学期	四月	1 豊かに想像する	詩 『朝のリレー』	知 詩の構成や表現の効果について理解することができる。 思 詩を参考にしながら、自分の詩を言葉で表現することができる。 主 積極的に詩に書かれた情景を想像し、音読することができる。	ノート ワークシート 発表
			古典「いろは歌」	知 ①現代仮名遣いと歴史的仮名遣いの違いに気づくことができる。 ②いろは歌に描かれた内容を現代語で理解することができる。	ノート ワークシート
		2 わかりやすく伝える	説明文『ペンギンの防寒着』	知 文章の構成を理解し、各段落の関係を整理することができる。	ノート ワークシート
		漢字	漢字の学習	知 既習の漢字を正確に読み、一画一画丁寧に、とめ・はね・はらいに気を付けて書くことができる。	小テスト
		文法	① 言葉の単位	知 言葉の単位と名称を理解し、日ごろの学習に役立てることができる。	テキスト 小テスト
	五月	2 わかりやすく伝える	説明文『クジラの飲み水』	知 比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。 思 ①文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などについて叙述をもとに捉え、要旨を把握している。 ②文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 主 進んで文章の構成や表現の効果捉え、学習課題にそって考えを報告しようとしている。	ノート ワークシート
		漢字	漢字の学習	知 既習の漢字を正確に読み、一画一画丁寧に、とめ・はね・はらいに気を付けて書くことができる。	小テスト
		文法	② 文の組み立て	知 ①文がどのような成分からなっているか理解することができる。 ②主語・述語の働きを理解し、文の中から抜き出すことができる。	小テスト
		書写	1 読みやすく書くための楷書	知・主 読みやすく書くために、文字の大きさと配列を考えて書くことができる。	作品
		中間試験			

学期	月	単元	学習内容	評価の観点	備考
	六月	3 ものものの見方・感性を養う	物語『空中ブランコ乗りのキキ』	知 ①原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 ②比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。 思 ①場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉えている。 ②文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。 主 進んで自分の考えを確かなものにし、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。	ノート ワークシート
		5 古典に学ぶ	古文『月を思ふ心』 古文『竹取物語』	知 歴史的仮名遣いに注意して、積極的に音読することができる。 思 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述をもとに捉え、要旨を把握している。 主 進んで要旨を把握し、学習したことを生かして考えたことを報告しようとしている。	ノート ワークシート レポート
		漢字	漢字の学習	知 既習の漢字を正確に読み、一画一画丁寧に、とめ・はね・はらいに気を付けて書くことができる。	小テスト
		文法	② 文の組み立て	知・思 修飾語・被修飾語の関係を理解して、分の成り立ちを捉えることができる。 知・思 接続語の働きを理解し、文の構造を理解することができる。 知・思 独立語の働きを理解し、文の構造を理解することができる。	テキスト 小テスト
		書写	文字の歴史	知 漢字の書体の変遷や仮名遣いの成立について理解することができる。	作品
	七月	3 ものものの見方・感性を養う ものものの見方・感性を養う	随筆『字のない葉書』	知 比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。 思 ①場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉えている。 ②場面と場面、場面と描写などを結びつけて内容を解釈している。 主 進んで心情の変化などについて描写をもとに捉え、学習課題にそって考えを記録しようとしている。	ノート ワークシート
		作文	読書感想文を書く	思 文章を読んだ感想を、自分の言葉でまとめることができる。	作品
		漢字	漢字の学習	知 ①既習の漢字を正確に読み、一画一画丁寧に、とめ・はね・はらいに気を付けて書くことができる。 ②部首の持つ意味や漢字の成り立ちの種類を理解することができる。	小テスト
		文法	② 文の組み立て	知・主 連文節の働き、並立の関係、補助の関係を理解し見分けることができる。	テキスト 小テスト
		期末試験			

学期	月	単元	学習内容	評価の観点	備考
二 学 期	九 月	4 論理的 に考える	説明文『玄関扉』	知 ①原因と結果意、見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 ②比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。 思 ①文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述をもとに捉え、要旨を把握している。 ②文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 ③文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしてている。 主 進んで事実と意見との関係などについて叙述をもとに捉え、学習課題にそって考えをまとめようとしている。	ノート ワークシート
		5 古典に 学ぶ	故事成語一矛盾	知 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムをとおして、古典の世界に親しんでいる。 思 ①文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 ②文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしてている。 主 進んで文章の構成や表現の効果捉え、学習課題にそって考えを記録しようとしている。	ノート ワークシート
		漢字	漢字の学習	知 ①既習の漢字を正確に読み、一画一画丁寧に、とめ・はね・はらいに気を付けて書くことができる。	小テスト
		文法	③ 単語の種類	知・主 自立語・付属語、活用、品詞について理解し、説明することができる。	テキスト 小テスト
十 月	6 情報を 関連付ける	図表 防災に関するデータ 記録 「みんな でいるから大丈夫の怖さ」	知 ①原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 ②比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方、引用の仕方 や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 思 ①話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて 考えをまとめている。 ②文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係など について叙述をもとに捉え、要旨を把握している。 ③目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈して いる。 ④文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして 考えている。 主 積極的に情報と情報との関係に注意して内容を解釈し、学 習の見通しをもって話し合い、考えをまとめようとしている。	ノート ワークシート 発表	
		漢字	漢字の学習	知 ①既習の漢字を正確に読み、一画一画丁寧に、とめ・はね・はらいに気を付けて書くことができる。	小テスト
		文法	④ 活用しない 自立語	知・主 名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞について理解し、 説明することができる。	テキスト 小テスト
		書写	書写の学習	知 毛筆や硬筆で一画一画丁寧に、とめ・はね・はらいに気を 付けて書くことができる。	作品
中間試験					

学期	月	単元	学習内容	評価の観点	備考	
	十一月	7 読みを深め合う	詩『それだけでいい』	知 比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。 思 ①場面と場面、場面と描写などを結びつけて内容を解釈している。 ②文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 主 進んで文章の構成や展開、表現の効果を抑え、学習課題にそって考えたことを伝え合おうとしている。		
		7 読みを深め合う	小説『トロッコ』	知 比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。 思 ①場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写をもとに捉えている。 ②場面と場面、場面と描写などを結びつけて内容を解釈している。 ③文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 主 進んで場面と描写などを結びつけて内容を解釈し、学習課題にそって考えたことを記録しようとしている。	小テスト	
		漢字	漢字の学習	知 既習の漢字を正確に読み、一画一画丁寧に、とめ・はね・はらいに気を付けて書くことができる。	テキスト 小テスト	
		文法	⑤ 活用する自立語	知・思 動詞について理解して、働きや性質を説明できる。	ワークシート 小テスト	
	十二月	8 視野を広げる	説明文『意味と意図』	知 比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。 思 ①目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。 ②文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。 主 進んで必要な情報に着目して要約し、学習課題にそって理解したことを文章にまとめようとしている。	小テスト	
		漢字	漢字の学習	知 既習の漢字を正確に読み、一画一画丁寧に、とめ・はね・はらいに気を付けて書くことができる。	テキスト 小テスト	
		文法	⑤ 活用する自立語	知・思 動詞について理解して、文章中の動詞について説明できる。	ワークシート 小テスト	
		書写	書写の学習	知 毛筆や硬筆で一画一画丁寧に、とめ・はね・はらいに気を付けて書くことができる。	作品	
		期末試験				
	三学期	一・二月	9 振り返って見つめる	小説『少年の日の思い出』	知 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 思 ① 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉えている。 ② 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 ③ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。 主 進んで文章の構成や表現の効果を抑え、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。	
漢字			中2の漢字の学習	知 既習の漢字を正確に読み、一画一画丁寧に、とめ・はね・はらいに気を付けて書くことができる。	テキスト 小テスト	
文法			復習	知・思 これまでの学習事項について説明し、活用することができる。	ワークシート 小テスト	
書写			書写の学習	知 毛筆や硬筆で一画一画丁寧に、とめ・はね・はらいに気を付けて書くことができる。	作品	
学年末試験						

※ 尚、進度等は授業時数等の関係により、変更される場合がある。

※ 上記の他に適宜教科書外の作品を扱う場合がある。

中学2年国語 シラバス

教科名	国語	科目名	国語	単位数	5
教科の目標	国語を適切に表現し成果に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。				
教科書	中学校国語2（三省堂）	副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・解いて覚える中学生の文法（とうほう） ・国語活用資料集東京都版 ・級別字典漢字の反復練習（浜島書店） ・原色小倉百人一首（文英堂） 		

1 学習の目標

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 学習の方法

(1) 授業について

- ・ノートは、読解分野用にB5版大学ノートを2冊用意する。1冊は「授業用ノート」で、もう1冊は「まとめ用ノート」。
- ・プリント保管用のクリアファイルを用意する。もしくは、授業用ノートにプリントを貼ってもよい。

(2) 予習復習について

- ・教科書の文章は、音読する習慣をつける。
- ・はじめて読む文章は、分からない語句や漢字がないか確認し、分からないものは辞書で調べる習慣をつける。（※辞書は必ず授業に持参すること。）
- ・便覧を積極的に活用すること。習った範囲だけでなく、できるだけ多くのページを読み進めることを推奨します。
- ・宿題の指示がある場合、期日までに完了させること。

3 年間授業計画

学期	月	単元	学習内容
一 学 期	四 月	1 豊かに想像する	詩『名づけられた葉』 古典『いろは歌』
		2 わかりやすく伝える 漢字 文法 書写	説明文『じゃんけんは、なぜグー・チョキ・パーの三種類なのか』 漢字の学習 ⑤活用する自立語 書写の学習
	五 月	2 わかりやすく伝える 漢字 文法 書写	説明文『人間はほかの星に 住むことができるのか』 手紙・メールの書き方 漢字の学習 ⑥活用しない自立語 書写の学習
	中間試験		
	六 月	3 ものの見方・感性を養う 漢字 文法 書写	詩歌 報告『壁に残された伝言』 漢字の学習 ⑥活用しない自立語 ⑦活用する付属語 硬筆・毛筆
七 月	4 論理的に考える 作文 漢字 文法 書写	評論『一〇〇年後の水を守る』 読書感想文を書く 漢字の学習 ⑦活用する付属語 書写の学習	
期末試験			
二 学 期	九 月	5 古典に学ぶ 漢字 文法 書写	『枕草子・徒然草』 『平家物語』 漢字の学習 ⑧敬語 書写の学習
	十 月	5 古典に学ぶ 漢字 文法 書写	「漢詩の世界」 漢字の学習 ⑧敬語 書写の学習
	中間試験		
	十 一 月	7 読みを深め合う 漢字 文法 書写	詩『大阿蘇』 小説『小さな手袋』 漢字の学習 ⑨紛らわしい品詞 書写の学習
	十 二 月	8 視野を広げる 漢字 文法 書写	評論『動物園でできること』 漢字の学習 ⑨紛らわしい品詞 書写の学習
期末試験			
三 学 期	一 ・ 二 月	9 振り返って見つめる 漢字 文法 書写	小説『走れメロス』 漢字の学習 復習 書写の学習
	学年末試験		

※ 尚、進度等は授業時数等の関係により、変更される場合がある。

※ 上記の他に適宜教科書外の作品を扱う場合がある。

中学3年国語 シラバス

教科名	国語	科目名	国語	単位数	4
教科の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2)社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 (3)言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。				
教科書	現代の国語3 (三省堂)	副教材	・解いて覚える中学生の文法 (とうほう) ・国語活用資料集東京都版 ・級別字典漢字の反復練習 (浜島書店) ・原色小倉百人一首 (文英堂)		

1 学習の目標

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) その場に応じた話し方・聞き方を学び、自分の考えを豊かな言葉で伝えようとする意識を高める。
- (3) 本を読み、読書に親しむことは、自分の可能性を広げることであると自覚し、他者の視点やものの考え方を理解することで、読書を生活に役立てて自己を向上させようとする意欲を高める。
- (4) 現代文は、『握手』『黒い雨』『故郷』などの教材の読解を通じて、国語を的確に理解し、考える力を高め、豊かな人間性を養う。
- (5) 古文は、歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの確認、簡単な古語単語の理解、現代語訳の方法を学習する。具体的には『枕草子』『万葉集・古今和歌集・新古今和歌集』『おくのほそ道』などの教材によって、日本語の美しさを知り、古文を読むための基礎的な知識を修得する。
また、冒頭文の暗誦など、古文においては特に音読も重視し、古文のリズムを体得する。
- (6) 漢文は、漢文の基礎知識、白文、訓読文、書き下し文などを理解し、訓点のつけ方、訓読法などに取り組む。また「漢詩」の学習を通じて、中国の古典が日本文化と日本語に与えた影響を理解するとともに、漢詩の基礎的な知識やルールを学ぶ。

2 学習の方法

- (1) 予習について (くわしくは、授業初回のガイダンスで説明します。)
- 教科書の文章は、くりかえし音読し、声に出して何回も読む練習をしましょう。
 - はじめて読む文章は、まず分からない語句や漢字がないか確認し、分からないものは辞書などですぐ調べましょう。(国語辞典はすぐ活用できるように、授業には必ず持参しましょう。)
- 「語句プリント」に蓄積
- 国語便覧を使うことで読んだ文章の世界観を広げることができます。作者や作品など、積極的に使って調べ、調べたことはノートに書きましょう。
 - 国語の基礎力向上のために、日々の読書を重視して行いましょう。
- (2) 授業について
- まちがってもいいのです。おそれず、はずかしがらず、けれど根拠をもって、発言しましょう。
 - 先生が黒板に書いたことだけがすべてではありません。口頭で説明されたことも含めて、聞き逃すことなくノートに書きましょう。
 - 他の人が読みやすい字を書くことが学習の基本です。ていねいな字をこころがけましょう。
 - 友だちの意見には学習のヒントがつまっています。しっかりと聞き、授業に集中しましょう。

○ 中学3年生の「国語」では、授業内で「書写」が行われます。「書写」は実技をともなった授業です。服装や必要な道具については、授業初回のガイダンスで説明します。

(3) 復習について

○ 予習 → 授業 → 復習 のサイクルを定着させ、その日に学校で習ったことは、放課後や帰宅後に必ず復習しましょう。

○ 毎回の授業で先生が示す授業の目標やポイントを、よく確認しましょう。

○ 理解できなかったことは自分でまず整理し、次の授業で質問できるようにしておきましょう。

3 基幹となる教育内容

(1) 漢字

小学校で学習する常用漢字、中学1・2年生程度の常用漢字の復習をしながら、中学3年生程度の常用漢字274字の学習をする。

漢字学習のサブテキストを用いて、継続的に漢字学習を重ね、年間を通して定期的に小テストを実施することで、漢字学習に力を入れる。

(2) 百人一首

毎週の授業で確認テストを実施し、作者や解釈を含め、理解・暗唱を目指す。

(3) 口語文法や書写

1・2年次の復習と、品詞は主に付属語にあたる助動詞・助詞について学習し、まぎらわしい品詞や敬語についても行う。また、国語の授業の中で、さまざまな書体を用いて、「漢字」「かな」の運筆（毛筆・硬筆）を行う。

(4) 作文・読書感想文

社会を見つめ、自分と社会との関係を感じながら、自分の意見を表現できる力を育てる。社会で生きる者として、「自分とは何か」を考えながら、社会で起こっている事柄を知り、文献を読み深めることで、自分の意見を表現・発表できる力をつける。

また、年1回2学期に、中学3学年で「作文・読書感想文コンクール」を実施し、全校生徒から提出させた作品の中から優秀作品を選出して、表彰して冊子にまとめ、全校に配布する。

(5) 行事

日々の授業での朗読指導の成果を、年1回の「朗読発表会」で全校生徒に披露する。また、研修旅行やその他行事との連携で、行事内容に合致した作品を教材として授業で取り扱う。

4 評価の観点と方法

(1) 評価の観点

評価の観点	目標と趣旨
知識および技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。
思考力・判断力・表現力等	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

学びに向かう力、人間性等	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値を認識しようとしているとともに、読書を通じて自己を控除うえ、言葉を適切に使おうとしている。

(2) 評価の方法

観 点	評 価 材 料	定期試験	確認テスト	小テスト	発表・発言	作文等	レポート等	ノート等	課題等
		知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項 情報の扱い方に関する事項 我が国の言語文化に関する事項	○	○	○	○	○	○
思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと 書くこと 読むこと	○	○	○	○	○	○	○	○
主体的に学習に取り組む態度					○	○	○	○	○

5 年間の授業計画

学期	時期	単元 (章)	学習内容	評価の観点	考査等		
一 学 期	四	詩	『岩が』(詩)	①多くの作品を読み、読むスピードと読解力を高めようとしている。 ②「随想」という作品に興味を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。 ③文脈における語句の意味を理解できる。 ④筆者の主張をまとめ、段落の役割を考えて文章が書ける。 ⑤口語文法の「品詞」の理解を深めている。	中間		
		随想	『希望』(随想)				
		小説	『握手』(小説)				
		俳句	『俳句の世界』「俳句十句」				
	五		(解説・俳句)				
		漢字	漢字テスト				
		文法 書写	口語文法の復習 硬筆・毛筆				
六	小説	『黒い雨』(小説)	①昨年の学習と『黒い雨』とを関連させながら、戦争文学の読解方法を身につけている。 ②研修旅行の事前学習として『黒い雨』を学習し、歴史的な背景も理解している。 ③古典の理解を深めている。 ④和歌の鑑賞を通して、意味のまとまりや句切れを理解し、「今」と「昔」に共通する感情を読み取ることができる。 ⑤文章を書く上で起承転結を意識し、構成を考えて文章が書ける。	期末			
	古文	『和歌の世界』(古文)					
七	漢字	漢字テスト					
	書写	硬筆・毛筆					

学期	時期	単元(章)	学習内容	評価の観点	考査等
二学期	九	論説 小説 古文	『情報社会を生きる』(論説) 『故郷』(小説) 『方丈記』(古文)	①メディアリテラシーとはどのようなものかを理解し、自分の生活と関連付けて考えることができている。 ②『故郷』を通して、読解力を高めるとともに、当時の中国の歴史的背景や、人権の問題に対する考えを、自分の言葉で表現できる。 ③『方丈記』から、古典の世界の情緒を感じ取り、作者が生きた時代の宮中の様子や文化について、古典常識を把握している。 ④基本的な古文単語の意味を理解している。 ⑤文章の中での「助詞」の使い方を理解し、的確に説明できる。 ⑥さまざまな文章に対して、賛否を明確に分けながら論じられる。	中間
	一〇	漢字 文法 書写	漢字テスト 口語文法の復習(助詞) 硬筆・毛筆		
二学期	一一	(小説) 古文	『坊っちゃん』(小説) 『おくのほそ道』(紀行文)	①『おくのほそ道』を鑑賞し、風景をどのような言葉で語っているのかが理解できる。 ②感想文の内容を掘り下げることができる。 ③「古典文法」の基本を学習し、古文の文章において活用できる。 ④書写において、運筆(毛筆・硬筆)の力を身につけている。	期末
	一二	漢字 文法 書写	漢字テスト 古典文法① 口語文法の復習 毛筆・硬筆		
三学期	一	小説 漢文	『夕空晴れて』(小説) 『論語』 漢文の訓読法	①漢文の鑑賞を通し、国を越え、時代を超えた共通の感動を共有している。 ②表現技法による効果的な心情表現の手法を学び取っている。 ③『夕空晴れて』を読み、登場人物の関係性と「思い」が読み取れている。 ④中学3年生までの漢字が習得できている。 ⑤中学校の古典文法が理解できている。 ⑥書写において、運筆(毛筆・硬筆)の力を身につけている。	学年末
	二	漢字 文法 書写	漢字テスト 古典文法② 毛筆・硬筆		

※定期試験ごとの学習内容における作品等の変更はある。

高校1年 必修科目「現代の国語」 シラバス

教科名	国語	科目名	現代の国語	単位数	2単位
教科の目標	国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。				
教科書	現代の国語（第一学習社）	副教材	カラー版 新国語便覧（第一学習社） 入試頻出漢字 TOP2500（いっぴな書房） 三訂版 よむナビ現代文1（浜島書店）		

1 学習の目標

- (1) 近現代の小説を鑑賞するとともに、その作品に流れる世界観を味わい、自らの感性を育てる。
- (2) 近現代の評論を読み、様々な見方・考え方が存在することを知るとともに、論理的な思考能力を高める。
- (3) 様々な作品を通して自分の考えを構築するとともに、「時と場」に応じて発言できる能力を身につける。

2 学習の方法

(1) 予習

- ①新しい単元に入る時には、全文を一度読む。
- ②意味がわからない語句を辞書で調べ、ノートにまとめる。

(2) 授業

- ①教科書、ノート、最新国語便覧、辞書を持参する。
- ②教科書をよく読み、教員の説明にきちんと耳を傾け、必要に応じて発言をする。
- ③板書されたことをノートに書き写すだけではなく、教員の解説、クラスメイトの発言、自分で考えたことなどを積極的にノートにまとめ、自分独自のノートが作れるように努力する。
- ④配布されたプリントの理解に努め、意見交換がある場合は積極的にその機会を活用する。

(3) 終礼テスト

- ①年間計画に従って、週1回、漢字や語句の小テストを行う。
- ②とった点数は定期テストごとに換算され、平常点に含める。

(4) 問題集

- ①自宅学習として、演習問題に取り組む。（授業で扱う場合もある。）
- ②定期的に課題として取り組み、提出した分については、平常点に含める。

(5) 夏休みの課題

- ①夏休みの期間を利用して自分の考えを文章にまとめる練習を行う。
- ②提示された課題図書を読み、読後感を文章化する力を養う。

3 評価の観点と方法

(1) 評価の観点

評価の観点	目 標 と 趣 旨
知識及び技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。
思考力・判断力・表現力等	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
A話すこと・聞くこと B書くこと C読むこと	「はなすこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
学びに向かう力、人間性等	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、読書を通じて自己を向上させ、言葉を適切に使おうとしている。

(2) 評価の方法

観 点	評 価 材 料	定期試験	確認テスト	小テスト	発表・発言	作文等	レポート等	ノート等	課題等
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	○	○	○	○	○	○	○	○
	情報の扱い方に関する事項				○	○	○	○	○
	我が国の言語文化に関する事項	○	○	○	○		○	○	○
思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと				○			○	○
	書くこと	○	○	○	○	○	○	○	○
	読むこと	○	○	○	○	○	○	○	○
主体的に学習に取り組む態度					○	○	○	○	○

4 年間の授業計画

月	単元と教材（配当予定時間数）	学習内容	評価の観点	定期試験等
4	1. 詩『私を束ねないで』（新川和江）	①詩を読み、その詩の世界を感じることによって、人の生き様について考える。 ②詩の読解を深めると同時に今の自分について思いを馳せ、またその思いを詩の形になぞらえることで創作に挑戦する。	①主題を追求しようとする。 ②作者の思いを感じると共に、園思いが自分の中にある事を見つめる。	定期試験等 中間試験 期末試験
5	2. 小説『羅生門』（芥川龍之介）	①小説を読み、そこに描かれた人間の生き様について考えを深める。 ②作品世界の舞台を理解するとともに、登場人物の心理の変化について学ぶ。	①主題を追求しようとする。 ②登場人物の生き方や感じ方を通して、自己形成の途上にある自分を見つめる。	
6	3. 小説『棒』（安部公房）	①小説を読み、そこに描かれた人間の生き様について考えを深める。 ②作品世界の舞台を理解するとともに、登場人物の心理の変化について学ぶ。	①主題を追求しようとする。 ②登場人物の生き方や感じ方を通して、自己形成の途上にある自分を見つめる。	
7	4. 評論『水の東西』（山崎正和）	①評論を読み、筆者の主張や考えの要点を文章に則して的確に捉える。 ②日本人の持つ感性について理解し、筆者の考えを学ぶ。	①主題を追求しようとする。 ②筆者の感性を理解するとともに、評論の基本を学ぶ。	

月	単元と教材（配当予定時間数）	学習内容	評価の観点	定期試験等
9	5. 評論『「文化」としての科学』 （池内了） 『鏡』（村上春樹）	①評論を読み、筆者の主張、考え方を知る。 ②科学の歩んできた歴史を知ると共に科学が人々の生活に大きく影響し今後更に必要不可欠な存在になることを認識する。	①主題を追求しようとする。 ②筆者の感性を理解するとともに、評論の基本を学ぶ。	
10	6. 評論『不均等な時間』（内山節） 7. 小説『城の崎にて』（志賀直哉）	①評論を読み、筆者の主張や考えの要点を文章に則して的確に捉える。 ②時間の概念を考えることをきっかけとして、近代化と時間の合理性との関係を理解する。 ①小説を読み、登場人物の心理や状況を理解し、生と死について考える。 ②3つの小動物の死をどう捉えるかを考え、自分の考えの移り変わりを学ぶ。	①主題を追求しようとする。 ②筆者の意図を、表現に注意しながら的確に捉える。 ①主題を追求しようとする。 ②作者や作品の時代背景について理解を深める。場面の展開に即して生と死について考える。	中間試験 期末試験
1 2 3	8. 小説『沈黙』（新潮文庫） （遠藤周作） または、 小説『夢十夜』（夏目漱石）	①小説を読み、場面や登場人物の描写を的確に捉える。 ②キリスト教の布教の歴史を知るとともに、当時のクリスチャンたちの考えを知り、「踏み絵」を通して信仰について考える。 ③研修旅行の事前学習として捉える。	①主題を追求しようとする。 ②小説1冊を読み、全体の流れを理解するとともに、当時の歴史的状況を把握する。 ③登場人物の行き方を捉え、それぞれの生き方について理解する。	学年末試験

※授業形態により教材等の変更あり

高校1年 必修科目「言語文化」 シラバス

科目	言語文化	単位	3	学年	1	*二人の担当者が授業を担当します。
使用教科書	高等学校 言語文化 (第一学習社)			副教材等	体系古典文法 (数研出版) 体系古典文法準拠ノート (数研出版) カラー版 新国語便覧 (第一学習社) 体系漢文 (数研出版) 体系漢文準拠ノート (数研出版)	

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習の方法

(1) 予習について

- ①全文を音読する。
- ②語句の意味調べをする。(古文の場合、品詞分解に挑戦し、分からない言葉は古語辞書等を用いて全て調べ、漢文の場合は、句形に注意しながら、分からない言葉は漢和辞典等で調べ、句形は体系漢文で調べること。)
- ③漢文では、全文をノートに写し、書き下し文も併せて書く。

(2) 授業について

- ①教科書、授業プリント、ノート、文法書、その他必要に応じて持参する。
- ②教科書をよく読み、教員の説明にきちんと耳を傾け、必要に応じて発言をする。
- ③板書されたものをノートに書き写すだけでなく、まずは自分で考える。その上で教員の解説、クラスメートの発言などを取り入れて再考する。
- ④配布されたプリントの理解に努め、意見交換がある場合は積極的にその機会を活用する。
- ⑤単位数は3単位。「古文」2時間と「漢文」1時間に分かれて実施する。

(3) 復習

- ①授業内で学習したことを、踏まえてもう一度文章を読んでみる。
- ②古語の意味や文法事項、表現技法に注目し、自分で現代語訳を作成する。
句形や語句の意味に注目し、自分で現代語訳を作成する。
- ③語句の意味や文法事項など、繰り返し復習し、文法書や問題集を活用して問題を解く。

3 評価について

(1) 評価の観点

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもちようとしている。

(2)評価の方法

観点	評価教材	定期試験	小テスト	発言・発表	レポート	ノート	ワークシート	課題
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	○	○	○	○	○	○	○
	情報の扱い方に関する事項			○	○	○	○	○
	我が国の言語文化に関する事項	○	○	○	○	○	○	○
思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと							
	書くこと	○	○		○	○	○	○
	読むこと	○	○	○	○	○	○	○
主体的に学習に取り組む態度				○	○	○	○	○

4 授業計画

(1)古文

学期	月	単元	学習内容	評価の観点	定期試験等
1	4 5	1. 古文の学習 2. 児のそら寝	①我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界を知る。 ②古文から現代文への変遷を知る。 ①古典の文章に慣れる。 ②説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ③古文特有の語彙にふれる。 ④現代語と比較しながら、品詞について理解を深める ⑤歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。	①これからの学習に見通しをもって、言語文化に興味・関心を深めようとしている。 ①積極的に説話を読み味わい、互いに話の理解を伝えあっている。 ②時間の経過による言葉の意味の変化を理解し、学習の見通しをもって調べたり説明したりしようとしている。	中間試験
	6 7	3. 『竹取物語』 「なよ竹のかぐや姫」 4. 『伊勢物語』 「芥川」	①古典特有の世界観に慣れる。 ②伝奇的作り物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ③物語の構造を分析する。 ④語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ①用言の活用について理解し、学習の見通しをもって活用形を調べようとしている。 ②話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ③作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ④物語の構造を分析する。	①初期仮名物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って伝奇性や心情描写の特色を捉えようとしている。 ②物語の構造について特徴を捉え分析しようとしている。 ①歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。 ②学習課題に沿って異なるテキストと読み比べ、積極的に分析しようとしている。	期末試験

学期	月	単元	学習内容	評価の観点	定期試験等
2	9 10	5.『伊勢物語』 「筒井筒」	①用言の活用について理解する。 ②作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。	①歌物語及び和歌について理解を深めようとしている。 ②用言の活用について理解を深めようとしている。	中間試験
		6.『枕草子』 「春は、あけぼの」「はしたなきもの」	①自由な文体の随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ②作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ③主として助動詞について、文語のきまりを理解する。	①学習の見通しをもって随筆のさまざまな文体や取り上げられた対象に触れ、進んで解釈を深めようとしている。 ②これまでの文法学習を踏まえ、助動詞についての理解を深めようとしている。	
	10 11 12	7.『土佐日記』	①記録としての日記とは異なる表現方法と随筆意図を読み解く。 ②内容や展開を的確に捉える。 ③主として助詞について文語のきまりを理解する。	①作品を積極的に批評したり討論したりしようとしている。 ②助詞について理解を深めようとしている。	期末試験
		8. 徒然草	①『枕草子』とは異なる思索的な随筆を読んで、作者の批判的精神が提示する事柄を具体的に読み解く。 ②さまざまな文体を駆使した随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ③作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ④主として敬語について文語のきまりを理解する。	①随筆の内容・構成などを粘り強く把握し、学習課題に沿って説明しようとしている。 ②敬語について理解しようとしている。	
3	1 2 3	9.『平家物語』	①合戦を主題とした文学作品を読み、争いを背景として生まれた思想や人間のありようを知る。 ②軍記物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ③主として敬語について文語のきまりを理解する。 ④歴史的な文体の変化について理解する。	①作品に表れている思想を粘り強く読み取り、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。 ②文体の歴史的背景を踏まえて本文を読み、表現や描写・文体の特色を理解しようとしている。	学年末試験
		10. 和歌	①和歌の修辞技法を理解し、和歌文芸の特徴を捉えようとしている。 ②作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ③言語文化の特質や、漢詩文の影響など、外国の文化との関係について理解する。	①作品に表れている情景や心情を粘り強く読み取り、これまでの学習を生かして和歌を鑑賞しようとしている。 ②着想・表現の時代による変化を理解し、これまでの学習を生かして和歌を鑑賞しようとしている。	

※進度等は授業時数等の関係により、異なる場合がある。

※上記のほかに適宜教科書外の作品を扱う場合もある。

(2)漢文

学期	試験	単元	学習内容	評価の観点	備考
1 学期	中間	訓読に親しむ 漢文を読むために	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意味を知る。 漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方を習得する。 漢文を訓読するための基礎知識として、再読文字の種類と読み方を習得する。 訓読のきまりを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> これからの学習に見通しをもって、漢文訓読の基礎知識を積極的に身につけようとしている。 日常的に使う故事成語や格言の量を積極的に増やし、漢文が我が国の言語文化と不可分の関係にあることを理解しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習問題 課題プリント 確認テスト
	期末	<ul style="list-style-type: none"> 『漁夫之利』 『蛇足』 	<ul style="list-style-type: none"> 漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。 文章の種類を踏まえて、たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉える。 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 作品の歴史的・文化的背景を理解する。 訓読のきまりを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 故事成語の由来となった話を読み、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解しようとしている。 故事成語の由来となった話を積極的に読み、わかった内容を工夫してまとめようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題プリント 確認テスト 日中異義語課題プリント 確認テスト
2 学期	中間	<ul style="list-style-type: none"> 『臥薪嘗胆』 	<ul style="list-style-type: none"> やや長めの史伝を読んで登場人物を押さえ、主要な人物の考えや主張を読み取る。 史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 范蠡の別の逸話と読み比べ、課題に応じて調査する。 訓読のきまりを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> やや長めの史伝を粘り強く読み、展開を押さえて登場人物を整理しようとしている。 登場人物の言動を粘り強く読み取り、そこに表れたものの見方、感じ方、考え方を捉えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題プリント 確認テスト
	期末	唐詩の世界 <ul style="list-style-type: none"> 『春暁』 孟浩然 『静夜思』 李白 孔子の思想 <ul style="list-style-type: none"> 『論語』 	<ul style="list-style-type: none"> 表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。・日本にも大きな影響を及ぼした『論語』について知り、孔子のものの見方や考え方を理解する。 文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 漢詩のきまりを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩のきまりを進んで理解し、学習の見通しをもって漢詩を鑑賞しようとしている。 粘り強く漢詩を読み比べ、よまれた情景や心情を説明しようとしている。 『論語』が我が国の文化に及ぼした影響について理解し、孔子の理想とするところを粘り強く説明しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題プリント 確認テスト

学期	試験	単元	学習内容	評価の観点	備考
3 学期	中間	孔子の思想 (2) 「自分で調べる」	<ul style="list-style-type: none"> ・孔子のエピソードを調べて文章にまとめる課題に応じて調査する。 ・訓読のきまりを理解する。 ・古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『論語』が我が国の文化に及ぼした影響について理解し、孔子の理想とするところを粘り強く説明しようとしている。 ・孔子について興味をもち、図書館の資料などを用いて、そのエピソードを調べようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題プリント ・グループワーク
	期末	唐代の分掌 ・『桃花源記』	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文の散文作品に触れて読みに慣れるとともに、桃源郷の由来ともなった理想郷のあり方を理解する。 ・文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・『老子』の「小国寡民」と読み比べる課題に応じて調査する。 ・訓読のきまりを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長めの文章を粘り強く読み、内容や展開を説明しようとしている。 ・作者の描く理想郷を理解し、孔子について興味をもち、『老子』の「小国寡民」と読み比べて、考えを深めようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題プリント ・確認テスト

※ 尚、進度等は授業時数等の関係により、異なる場合がある。

※ 上記の他に適宜教科書外作品を扱う場合もある。

高校2年 必修科目「文学国語」 シラバス

教科名	国語	科目名	文学国語	単位数	2
教科の 目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。</p> <p>(2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</p>				
教科書	文学国語（東京書籍）	副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・カラー版 新国語便覧(第一学習社) ・入試頻出漢字 TOP2500(いっぴな書房) 		

1 学習の目標

- (1) 近現代の小説を鑑賞するとともに、その作品に流れる世界観を味わい、自らの感性を育てる。
- (2) 近現代の評論を読み、様々な見方・考え方が存在することを知るとともに、論理的な思考能力を高める。
- (3) 様々な作品を通して自分の考えを構築するとともに、「時と場」に応じて発言できる能力を身につける。

2 学習の方法

(1) 予習

- ①新しい単元に入る時には、全文を一度読む。
- ②意味がわからない語句を辞書で調べ、ノートにまとめる。

(2) 授業

- ①教科書、ノート、常用国語便覧、辞書を持参する。
- ②教科書をよく読み、教員の説明にきちんと耳を傾け、必要に応じて発言をする。
- ③板書されたことをノートに書き写すだけでなく、教員の解説、クラスメイトの発言、自分で考えたことなどを積極的にノートにまとめ、自分独自のノートが作れるように努力する。
- ④配布されたプリントの理解に努め、意見交換がある場合は積極的にその機会を活用する。

(3) 終礼テスト

- ①年間計画に従って、週1回、漢字や語句の小テストを行う。
- ②とった点数は定期テストごとに換算され、平常点に含める。

(4) 演習問題

- ①自宅学習として、演習問題に取り組む。(授業で扱う場合もある。)
- ②定期的に課題として取り組み、提出した分については、平常点に含める。

3 評価の観点と方法

(1) 評価の観点

評価の観点	目 標 と 趣 旨
知識及び技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。
思考力・判断力・表現力等	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
A話すこと・聞くこと B書くこと C読むこと	「はなすこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
学びに向かう力、人間性等	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、読書を通じて自己を向上させ、言葉を適切に使おうとしている。

(2) 評価の方法

観 点	評 価 材 料	評 価 方 法								
		定期試験	確認テスト	小テスト	発表・発言	作文等	レポート等	ノート等	課題等	
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	情報の扱い方に関する事項					○	○	○	○	○
	我が国の言語文化に関する事項	○	○	○	○	○	○	○	○	○
思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと				○			○	○	
	書くこと	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	読むこと	○	○	○	○	○	○	○	○	○
主体的に学習に取り組む態度					○	○	○	○	○	

4 年間の授業計画

学期	時期	単元(章)	学習内容	評価の観点	考査等	
一学期	四・五	遠藤周作 『沈黙』 (新潮文庫)	①小説を読み、場面や登場人物の描写を的確に捉える。 ②キリスト教の布教の歴史を知るとともに、当時のキリシタンたちの考えを知り、「踏み絵」を通して信仰について考える。 ③研修旅行(長崎)の事前学習として捉える。	①主題を追求しようとする。 ②小説1冊を読み、全体の流れを理解するとともに、当時の歴史的状况を把握する。 ③登場人物の行き方を捉え、それぞれの生き方について理解する。	ノート 課題プリント 小テスト	
	中間試験					
	六	清岡卓行 『ミロのヴィーナス』	①評論を読み、筆者の主張や考えの要点を文章から的確に捉える。 ②詩人としての筆者の感性を通して、美と芸術の本質を学ぶ。	①主題を追求しようとする。 ②筆者の感性を理解するとともに、評論の基本を学ぶ。	ノート 課題プリント	
	七	鈴木孝夫 『相手依存の自己規定』	①評論を読み、筆者の視点や観点が対象への着眼、発想に結びつくことを理解する。 ②日本語の言語現象を通して、日本人の自我構造の特質を学ぶ。	①主題を追求しようとする。 ②筆者の意図を、表現に注意しながら的確に捉える。	課題プリント 小テスト	
期末試験						

学期	時期	単元(章)	学習内容	評価の観点	考査等	
二 学 期	九	中島敦 『山月記』	①小説を読み、人が虎に化すという伝奇的な作品を理解するとともに、主人公の苦悩、孤独に触れ、人間理解を深める。 ②漢語や漢文脈の文体に触れ、その美しさを味わう。	①主題を追求しようとする。 ②登場人物の生き方や感じ方を通して、自己形成の途上にある自分を見つめる。	ノート 課題プリント	
	一〇	高階秀爾 『日本人の美意識』	①評論を読み、提示された問題に対し自分なりの意見を持つ。 ②日本の美意識の特質について関心を深め、現代の生活行動につながっていることを知る。	①主題を追求しようとする。 ②西欧人と日本人との対比の中で日本の美や文化への関心を理解する。	小テスト	
	中間試験					
	一一・一二	丸山真男 『「である」ことと「する」こと』	①評論を読み、日本の近代化の特質とその問題を理解する。 ②近代社会の問題について考察を深め、社会のありようについて自分なりに考える。	①主題を追求しようとする。 ②社会を歴史の中で展開するものであると捉え、時代とともに変化する社会への目を養う。	ノート 課題プリント 小テスト	
	期末試験					
三 学 期	一～三	夏目漱石 『こころ』	①小説を読み、構成と主題の把握、登場人物の性格や心理を、文章の表現から理解する。 ②長編小説のおもしろさと奥深さを味わうとともに、人の心のエゴイズムについて考える。 ③時代を超えて生き残る名作を読み、文学のおもしろさに触れる。	①主題を追求しようとする。 ②登場人物の心理を読み取り、人間の生き方についての考察を深める。	ノート 課題プリント 小テスト	
	学年末試験					

◇ 高校2年 必修科目「古典探究」・「理系古典」 授業のシラバス ◇

教科名	国語	科目名	古典探究	対象クラス	推薦・文系受験	単位数	3単位
			理系古典		理系受験		2単位
科目の目標		古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理目標解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。					
使用教科書		精選古典B 古文編（東京書籍） 精選古典B 漢文編（東京書籍）	使用副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・体系古典文法（数研出版） ・体系古典文法学習ノート（数研出版） ・わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語330（い いずな書店） ・カラー版新国語便覧（第一学習社） ・ステップアップノート10漢文句形ドリルと演習（河合塾） 			

1 学習の目標

- (1) 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。また、使用された語句や文法事項、表現技法が文章の表現に与える深みを味わう。
- (2) 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。特に、文章の中心となる事柄に注目し、登場人物の考え方や心情、筆者の主張などを的確にとらえる。
- (3) 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。特に、古人の思想や感性に触れ、伝統的なものの考え方や価値観について考えるとともに、古人と現人との価値観や考え方の違いについて考える。
- (4) 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。
- (5) 古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深める。

2 学習の方法

(1) 予習について

○シラバスを用いて学習内容を確認し、ノートや指定されたプリントを用いて以下の事項を行う。（尚、予習方法の詳細については、年度当初に配布される『授業の進め方について』のプリントに記された内容を参考にすること。）

- ① 新しい単元に入る時は本文を全文読み、ノートに書き写す。尚、本文を読む際は必ず音読すること。
- ② 別紙本文プリントを用いて音読をしながら、古文の場合は各文節に斜線を入れて文節に区切り、漢文の場合は書き下し文に直す。
- ③ 語句の意味調べをする。（古文の場合、品詞分解をし、分からない言葉は古語辞書を用いて全て調べ、漢文の場合は、句形に注意しながら、分からない言葉は漢和辞典で調べ、句形は漢文句法演習ドリルで調べること。）
- ④ 作品の出典について、指定された便覧、辞典等を利用して調べ、レポート用紙等にまとめる。

(2) 授業について

- ① 文語の決まり（品詞と品詞の用法、活用、意味など）を理解し、文の構成を把握して、文章の展開や流れを掴む。
漢文の場合は、句形を意識して読み進め、漢文独特の言い回しやリズムに慣れながら、文章の展開や流れを掴む。
現代語訳を行う。
- ② 主題を理解し、作品を読み味わう。
- ③ 発問については、必ず自分で答えを出し、解答例と比較する。

(3) 復習について

○学習ノートに次のことを復習する。

- ① 古語の意味や文法事項、表現技法に注目し、自分で現代語訳を作成する。
句形や語句の意味に注目し、自分で現代語訳を作成する。
- ② 作品の中心となっていることがらについて、40字程度でまとめる。
- ③ シラバスに記された学習内容の項目ごとに理解しているかを確認し、不十分な部分はノートや課題プリント等を通して再確認する。
- ④ 語句の意味や文法事項など、覚えなければならない事柄について、繰り返し復習し、類似の問題を解く。

〈学習アドバイス〉

○古文が読めるようになるためには、まず文語文法の知識と語彙力を身につけなくてはなりません。一つ一つの言葉の意味を理解することが一番のポイントです。

次に、一文が長く、主語が明示されていないのが古文の特徴です。意味的なまとまりに分けながらあらすじをつかみ、時代背景や日本の伝統文化に興味を持ちながら読んでいきましょう。

また、日常の学習では、本文を声に出して読み進め、古文独特の言い回しや表現に慣れるよう心がけましょう。

○漢文に関しては、まずは漢文の構造を理解しましょう。そして、日頃から訓点に従って読み進める訓練をすることが大切です。さらに、漢文独特の読み方をする文字や、句形などを把握することが文章の内容を理解する上では大切です。しかし、古文よりも覚えなければならない事柄は限られているので、学習はしやすいと思います。繰り返し学習が鍵となります。頑張ってください。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
関心・意欲・態度	古典を読む楽しさを味わったり、伝統的な言語文化に触れることの意義を理解したりすることを重視し、古典への関心を高めようとしている
話す・聞く能力	
書く能力	韻文の構造や決まり・修辞を理解し、想像力に富んだ作品を創作することができる。
読む能力	人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、自分の考えを深めたり発展させたりしながら、古典としての古文・漢文を正確に読み取っている。
知識・理解	文語の決まりや訓読のきまりを理解し、また、文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙力を身につけている。

(2) 評価の方法（以下観点①～③は「(1) 評価の観点」と対応する）

評価材料 観点	定期考査	小テスト	実技実習	発言発表	作品	レポート	ノート	ワークシート	討議
関心・意欲・態度			△	○	○	○	○	○	△
話す・聞く能力									
書く能力					◎				
読む能力	◎		△	○	○	○	△	○	△
知識・理解	◎	○		○		△	△	○	

※ 原則として定期試験（80点満点）＋観点別評価（20点満点、平常点）＝100点満点として評価する。

〈担当者からのメッセージ〉

○各単元の終了時には、ノートの回収をします。調べたことや、自分の意見を書いて期日を守って提出しましょう（古文）。

○各単元の終了時には、学習課題プリント等の提出があります。出された課題は計画的に学習を進めてください（古文）。

○ワークシートは必ずノートに添付し、整理をしておきましょう。尚、プリントは番号順に添付すること（古文）。

○毎授業配布されるプリントは、必ずファイルに綴じ、整理をしておきましょう（漢文）。

○新しい単元に入る際には、必ずノートに予習をしてから授業に臨みましょう（漢文）。

○辞書を引く習慣をつけましょう。漢和辞典はなるべく部首引きをしましょう（漢文）。

○今年度の文法の中心事項は、以下とします。『古典文法』『漢文句法演習ドリル』のテキストを参考にして繰り返し学習しましょう。

* 古典文法事項…推量の助動詞（含、打消推量・現在推量・過去推量・原因推量等）、推定の助動詞、比況の助動詞、願望の助動詞、

助詞（特に格助詞、接続助詞、終助詞、副助詞）、副詞、和歌の修辞法、敬語

* 漢文文法事項…置き字・再読文字・使役・否定・禁止・疑問・反語・詠嘆・受け身・仮定・限定・抑揚・累加・比況・願望・接続・漢詩

○適当な時期に、レポート等の課題を課します。日常の学習では、文法事項や現代語訳だけに捕らわれず、古典の文章を読み味わう中で、内容の理解を深め、自らの考えを持ち、それを表現する習慣を身に付けるようにしましょう（古文）。

4 古文授業計画

学期	月	単元	学習内容	評価の観点	備考	
1	4 (6)	1 説話(6)	古文の読み方を確認する。 説話の展開や内容のおもしろさを味わう。	・文節を意識しながら音読することができる。 ・説話の特徴を理解し、内容を説明できる。		
		『宇治拾遺物語集』 ・小野篁、広才のこと	・この文章の主旨を読み取る。 ・帝と皇それぞれの発言に込められた気持ちについて理解する。	・文章の趣旨が読みとれている。 ・帝と皇の心情が理解できている。	・ノート ・課題プリント ・小テスト	
			・敬語表現、副詞、係助詞に注目し、適切な現代語訳をする。	・敬語表現、副詞、係助詞を理解し、適切な現代語訳できる。		
		『古今著聞集』 ・能は歌詠み	・「青柳の…」の歌に「大臣」が「感じ給ひ」た理由をまとめる。 ・「春霞…」の歌のおもしろさを説明する。	・「大臣」が感心した理由と「侍」が「能は歌詠み」と自負した理由を説明している。 ・春と秋の結び付け方を踏まえて、「春霞…」の歌のおもしろさを説明している。	・ノート ・課題プリント ・小テスト	
			・係助詞、接続助詞に注目し、適切な現代語訳をする。	・係助詞、接続助詞の働きを理解し、現代語訳することができる。		
		5 (5)	2 物語1(4)	歌物語を読み、その特性について考える。 和歌に着目しながら、登場人物の言動や心情をとらえる。	・物語中の和歌の役割を理解し、内容説明ができる。 ・和歌に込められた登場人物の心情を理解することができる。	
	『蜻蛉日記』 ・なげきつつひとり寝る夜		・女の悩みについて、理由を考えながらまとめる。 ・二つの和歌の関係を考える。	・通い婚について理解を深め、当時の女性の生き方と和歌を通じての心情の吐露を理解する。 ・二つの歌の類似点を理解し、類似点の発生した理由を説明することができる。	・ノート ・レポート ・小テスト	
			『古典芸能について』(1) ・歌舞伎事前学習	・推量の助動詞、各助詞、和歌の修辞を理解し、適切な現代語訳をする。		・助動詞「けむ」、各助詞「して」、和歌の修辞法がもたらす効果を利用し、現代語訳することができる。
	中間試験					
	6 (5) ・7 (1)	3 軍機物語(6) 「忠度の都落ち」	随筆を読み、自然や人間に対する、古人の優れた感性に触れる。 言葉の変遷という観点から古語と現代語を比較し、国語の特質について考える。	・中世の和漢混交文を読む。忠度の都落ちしていく心情を押さえ、その物語性を読み解く。		
		『枕草子』 ・九月ばかり	・本文に描かれている情景を文章にまとめる。 ・「いみじうあはれにをかしけれ。」と「またをかしけれ。」の内容の違いを考える。	・本文に描かれている情景を理解するとともに、筆者の感性を理解している。	・ノート ・課題プリント ・レポート ・小テスト	
			・「いみじうあはれにをかしけれ。」を品詞分解し、それぞれの語の文法的説明をする。	・正確な文法理解をもとに、適切な現代語訳をしている。		
		・雪のいと高うふりたるを	・完了、存続の助動詞の用法を理解し、適切に現代語訳する。			
			・定子が笑った理由を考える。 ・女房たちの、清少納言に対する評価を考える。 ・「さべきなめり」について、表記が省略されている部分を考え、品詞分解する。	・女房たちの、清少納言に対する評価について理解している。 ・正確な文法理解をもとに、適切な現代語訳をしている。		
		期末試験				

※ 尚、進度等は授業時数等の関係により、異なる場合がある。

※ 上記の他に適宜教科書外作品を扱う場合もある。

5 漢文授業計画

学期	月	単元	学習内容	評価の観点	考査
一学期	四 七月	1 小話	小話一六編	<ul style="list-style-type: none"> ・訓点に注意して正しく訓読や現代語訳をしている。 ・語句の意味を理解している。 ・句法を理解している。 ・内容を正しく読み取っている。 	中間
		2 詩1	近体詩一八首 日本の漢詩一二首 漢詩作詩	<ul style="list-style-type: none"> ・近体詩のきまりを理解している。 ・作者について理解している。 ・詩を正確に読んでいる。 ・詩の内容を理解している。 ・詩形・押韻・対句を理解している。 ・正確に現代語訳している。 ・七言絶句を作詩することができる。 	期末
二学期	九 十二月	3 史記1	項羽 劉邦	<ul style="list-style-type: none"> ・時代的・地理的背景を確認している。 ・訓点や仮名遣いに注意して正しく音読している。 ・語句・句法に注意して正しく現代語訳している。 ・内容を正しく読み取っている。 	中間
		4 思想1	儒家と道家	<ul style="list-style-type: none"> ・諸子百家の活動時期や著作等について理解している。 ・リズムに注意して音読している。 ・助動詞の扱いに注意して書き下し、現代語訳している。 ・内容を正しく読み取っている。 	期末
三学期	一 三月	5 小説1	小説一三編	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文の「小説」に関する理解を深めようとしている。 ・『世説新語』『太平広記』について、理解している。 ・訓点に従って、漢文を正確に読んでいる。 ・語句・句法に注意しながら、登場人物の言動を整理し、本文の内容を理解している。 	学年末
		6 詩2	古詩一五首	<ul style="list-style-type: none"> ・古体詩の学習に意欲的に取り組もうとしている。 ・古体詩と近体詩の違い、古体詩のきまりを理解している。 ・訓点に従って、詩を正確に読み、書き下している。 ・それぞれの詩の詩形・押韻・対句を理解している。 ・現代語訳し、詩の主題や作者の心情を理解している。 	
		7 文1	文一三編	<ul style="list-style-type: none"> ・『楚辞』と屈原について、『陶淵明集』と陶潜について、『古文真宝後集』と李白についての基礎知識を理解している。 ・正確に音読している。 ・正確に現代語訳している。 ・内容を正しく読み取っている。 	

※ 尚、進度等は授業時数等の関係により、異なる場合がある。

※ 上記の他に適宜教科書外作品を扱う場合もある。

高3必修科目「文学国語」 シラバス

教科名	国語	科目名	文学国語	単位数	3単位(推薦・文系受験) / 2単位(理系受験)
教科の目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。				
教科書	文学国語(東京書籍)	副教材	新訂版 最新国語便覧(浜島書店) 生きる漢字・語彙力(駿台文庫) 現代文キーワード読解 改訂版(Z-KAI)		

1. 学習の目標

- (1) 高校の最高学年にふさわしく、近代以降の文章を正確に読解できる能力を身につける。
- (2) さまざまな作品を通して自分の考えを表現すると同時に、時と場面に応じて発言できる能力をつける。特に自らの進路を切り拓くための志望理由書の作成、及びあらゆるレベルに応じた小論文の力を育てる。
- (3) 大学入試試験に対応するべく演習を充実させ、講習等を実施していく。望む進路を確保するために現代文、古文、漢文それぞれの力を育てる。

2. 学習の方法

(1) 予習

- ①新しい単元に入る時には、全文を一度読む。
- ②意味のとれない語句を辞書で調べ、ノートにまとめる。

(2) 授業

- ①教科書、ノート、最新国語便覧、辞書を持参する。
- ②教科書をよく読み、教員の説明にきちんと耳を傾け、必要に応じて発言をする。
- ③板書されたものをノートに書き写すだけでなく、教員の解説、クラスメートの発言、自分で考えたことなどを積極的にノートにまとめ、自分独自のノートを作るように努力する。
- ④配布されたプリントの理解に努め、意見交換がある場合は積極的にその機会を活用する。
- ⑤作品を通して考えたことなどを授業時間内に800字程度の文章として論理的に書く練習をする。
- ⑥単位数は3単位。教科書の読解を中心とした「現代文」2時間と演習課題(入試問題の演習、小論文等)を中心とした「演習」1時間に分かれて実施する。

(3) 復習

- ①授業内で学習したことを見直す。

(4) 終礼テスト

- ①年間計画に従って、週1回、漢字及び語彙の小テストを行う。
- ②とった点数を換算して平常点に入れる。

3. 評価について

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①関心・意欲・態度	国語と言語文化に関する関心を深め、国語を尊重しその向上を図り、進んで表現したり理解したりしようとする。
②話す・聞く能力	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。
③書く能力	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて適切に文章を書く。

観点	趣旨
④読む能力	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて近代以降の様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。
⑤知識・理解	表現と理解に役立つための音声・文法・表記・語句・語彙・漢字・文学史などを理解し、知識を身につける。

(2) 評価の方法

観点	評価材料	定期試験	単元テスト	小テスト	実技実習	発言発表	作品	レポート	ノート	ワークシート	討議	課題集
①関心・意欲・態度						○		○	○		○	
②話す・聞く能力						○						
③書く能力								○	○			
④読む能力		○										
⑤知識・理解		○		○								

4. 授業計画

月	単元と教材 (配当予定時間数)	学習内容	評価の観点	定期試験等
4	1. 評論『社会の壊れる時—知性的であるとはどういうことか』(鷲田清一) (8時間)	①評論を読み、筆者の主張や考えの要点を文章に即して的確に捉える。 ②「知性的である」ことを捉え、現代社会の特徴を掴む。	①主題を追求しようとする。 ②筆者の意図を、表現に注意しながら的確に捉える。	中間試験
5	2. 小論文、問題演習	①与えられたテーマに則した文章表現の技術を学ぶ ②問題演習を行うことで入試に対応できる力を育てる	①テーマに則って文章を書こうとする。 ②多くの問題に触れ受験技術を磨く。	
6	3. 小説『舞姫』(森鷗外) (11時間)	①近代文語文の読み方を掴む。 ②新国家勃興期のエリートの苦悩を知る。 ③時代を超えて生き残る名作を読み、文学のおもしろさに触れる。	①主題を追求しようとする。 ②登場人物の心理を読み取り、人間の生き方についての考察を深める。 ③文語文の特徴を掴み、正確な読解を心がける。	
7	4. 小論文、問題演習	①与えられたテーマに則した文章表現の技術を学ぶ ②問題演習を行うことで入試に対応できる力を育てる	①テーマに則って文章を書こうとする。 ②多くの問題に触れ受験技術を磨く。	期末試験

月	単元と教材（配当予定時間数）	学習内容	評価の観点	定期試験等	
9	5. 小説『檸檬』（梶井基次郎） （6時間）	①小説を読み、場面や登場人物の描写を的確に捉える。 ②イメージと心情が融合した感覚的な文章を味読する中で、青年期の不安と美への衝動を理解する。	①主題を追究しようとする。 ②主人公の独特な感性を掴み、特異な言動の背景にある心情を掴む。	中間試験	
10	6. 評論『他者の声 実在の声』（野矢茂樹） （6時間）	①評論を読み、筆者の述べる人間・社会についての的確に理解する。 ②他者を見つめる事が自らを見つめることにつながることを考えさせる。	①主題を追求しようとする。 ②筆者の論理展開を掴みながら、他者や異文化に対して理解する。		
11	7. 小論文、問題演習	①与えられたテーマに則した文章表現の技術を学ぶ ②問題演習を行うことで入試に対応できる力を育てる	①テーマに則って文章を書こうとする。 ②多くの問題に触れ受験技術を磨く。		
12	8. 随想『クレールという女』（須賀敦子）（4時間）	①随想を読み、描かれた内容を的確に捉える。 ②随想を読むことを通して、感性や心情を豊かにする。	①主題を追究しようとする。 ②主人公の独特な感性を掴み、特異な言動の背景にある心情を掴む。		
	9. 評論『抗争する人間』（今村仁司） （6時間）	①評論を読み、その内容についてさまざまな情報を整理・分析し、自分の意見を表現する。 ②現代社会における人間心理の特徴を捉え、現代社会のありようを理解する。	①主題を追究しようとする。 ②筆者の主張を支える論理性に着目し、現代社会における人間の暴力性への理解を深める。		
	10. 小論文、問題演習	①与えられたテーマに則した文章表現の技術を学ぶ ②問題演習を行うことで入試に対応できる力を育てる	①テーマに則って文章を書こうとする。 ②多くの問題に触れ受験技術を磨く。		
					期末試験

※ 状況に応じて変更する場合があります。

高3文系科目「古典探究」(古典・古典演習) シラバス

教科名	国語	科目名	古典探究	対象	文系受験クラス・推薦クラス	単位数	3単位
教科の目標	古文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。						
教科書	精選古典探究 (東京書籍)	副教材	古文単語 351 (尚文出版) 源氏物語で理解する敬語・識別マスターワーク (数研出版) 古典文法集中トレーニング助動詞編 (いっずな書店) 体系古典文法 (数研出版)				

1 学習の目標

- (1) 古文において、文語のきまりを理解し、語彙を豊かにし、言語文化の特質や、伝統と文化について理解を深め、作品を読み味わう力を身につける。讃美歌の歌詞の理解にも繋げる。
- (2) 古文の様々な文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりする力を養う。
- (3) 文章や作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しみ、日本文化の特質について考える。
- (4) 書き手の意図や文章中の人物の心情などを的確に読み取る。
- (5) 高1、2で学んだ文法・単語を自ら活用し、文脈に即して意味や用法を習得する。
- (6) ある程度幅広く古典を取り上げ、言語文化の変遷について理解する
- (7) 一般入学試験、特にセンター試験において本校受験者の得点率平均が80%を超えることを目標に授業展開を検討し、講習などを実施していく。当面は受験者の平均点が全国平均の50%を超えることを目標とする。

2 学習の方法

(1) 予習について (詳しくは年度当初の授業にて説明)

- ①教科書の当該箇所を音読し、授業プリントを使用しながら品詞分解する。
- ②授業プリントで指示された単語を、古語辞書や「古文単語351」を用い、意味調べをする。
- ③授業プリントで指示された箇所を現代語訳する。
- ④便覧などを活用し、本文プリントに作品の出典や文学史的な位置づけについて調べたものをまとめる。

(2) 授業について

- ①高3 古典探究の授業は、教科書の読解を中心とした「古文」(2時間)と演習課題を中心とした「演習」(1時間)に分かれて実施する。
- ②予習の確認をしながら、重要古文単語の意味を確認し、要点箇所については、品詞分解なども行い、正確な逐語訳ができるようにする。
- ③文語のきまりを理解し、文の構成を把握して文章の展開や流れをつかみ、主題を理解して作品を読み味わうようにする。
- ④適宜、問題演習を行い、学習の理解を深める。
- ⑤古文演習は「源氏物語で理解する敬語・識別マスターワーク」を中心的に扱う。

(3) 復習について

- ①本文を自分で現代語訳できるか、確認をする。古語の意味、文法事項、表現技法に注目する。
- ②作品の中心となっている事柄をまとめる。
- ③シラバスに記された学習内容を項目ごとに理解しているか確認し、不十分な部分はノートや課題プリント等を通して再確認する。

(4) 小テストについて

1年間を通して、「古文単語330」にそって授業中に小テストを実施し、平常点として成績に加味する。

3 評価について

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①関心・意欲・態度	古典への関心を持ち、積極的に理解しようとしている
②話す・聞く能力	
③書く能力	
④読む能力	古典を正確に読み取る
⑤知識・理解	文語のきまりや訓読の決まりを理解し、古文常識、語彙力を身につける

(2) 評価の方法

評価材料	定期考査	単元テスト	小テスト	実技実習	発言発表	作品	レポート	ノート	ワークシート
①関心・意欲・態度					○			○	
②話す・聞く能力									
③書く能力									
④読む能力	○		○		○				○
⑤知識・理解	○		○						○

〈担当者からのメッセージ〉

- *本文の音読と書き写し、古文単語調べの予習だけは必ずしましょう。指示された要点箇所の現代語訳も可能な限りしましょう。
- *高3では、初見で本文のおおその話の流れを理解できるように頑張りましょう。
- *1、2年次で触れながらも定着しなかった重要語・単語を再復習しましょう。
- *古文演習では「和歌修辞マスターノート」を使用し、和歌の修辞を学び、より奥行き深い美を深く学んでいきます。
- *特に受験生は、地道に勉強をし、夏以降は「古文は得点源」と言えるように努力しましょう。

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点	考査等
4月 5月	物語 『源氏物語』車争い 評論 『源氏物語』玉の小櫛	①『源氏物語』に関する知識を得る ②登場人物と場面について正確に理解する ③古文読解と味読の高校生としての仕上げをする	①『源氏物語』とその文学史的意義について調べたか ②登場人物と場面について正確に理解できたか ③『源氏物語』の読解を通じて、古文を十分にも味読できたか	課題プリント 小テスト
1学期 中間試験				
6月 7月 9月	日記 『紫式部日記』 評論 『源氏物語』玉の小櫛	①作品の舞台、登場人物を確認 ②作者特有の心理状態を把握する ③「もののあはれ論」を理解する	①作品の舞台、登場人物を確認できたか ②作者特有の心理状態について考え、把握しようとしたか ③もののあはれ論について調べたか	課題プリント 小テスト
1学期 期末試験				
9月 10月	評論 『古今和歌集仮名序』 『俊頼髓脳』 『無名抄』 『正徹物語』	①「歌論」というジャンルについて理解する ②和歌の本質は叙情であることを理解する ③平安歌人の和歌に関する理解をつかむ ④歌道に精進する歌人の生き方を知る	①「歌論」というジャンルについて調べることができたか ②本文の読解を通じて、和歌の本質について理解できたか ③平安歌人の和歌に対する考えを理解しようとしたか ④歌人にとって歌道に精進することの意義を理解しようとしたか	課題プリント 小テスト
2学期 中間試験				
11月 12月	近代の文章 『雨月物語』 「浅茅が宿」	①近世の文章の表現の特色を理解し作品を読み味わう。 ②登場人物と場面について正確に理解する ③中古・中世の文章との違いを考えながら、近世の文章の特色を知る。	①『雨月物語』とその文学史的意義について調べたか ②登場人物と場面について正確に理解できたか ③『雨月物語』の読解を通じて、古文を十分にも味読できたか	課題プリント 小テスト
2学期 期末試験				

※授業進度の状況によっては単元や教材を変更することがあります